

故郷の人物を知ろう

たかおか

おん こ ち しん

温故知新

瑞龍寺開山 広山恕陽(?~1623)

国宝・瑞龍寺を開いたのは、曹洞宗の広山で恕陽は字(氏名以外の通称)です。上野(群馬県)出身とされていますが、一説には越前府中(福井県越前市)の味噌屋又右衛門の二男で富山町肝煎・越前屋甚右衛門の弟ともいわれています(『高岡知名録』)。幼時に大中寺(栃木市大平町)にて出家しました。

越前府中の宝円寺・象山徐芸(曹洞宗通幻派)に入門し、その法を嗣ぎます。また、總持寺祖院(輪島市門前)で禅道を学んだのち、越前宝円寺、丹波永沢寺(兵庫県三田市)、越前龍泉寺(越前市)、禅林寺(同)など通幻派の名刹の住職を歴任しました。

1598年、金沢宝円寺(金沢市)の三代目の住職となり、1605年、以前より帰依を受けていた前田利長の隠居に従い富山へ移ります。1613年には高岡へ移り、病床の利長に教えを受けました。この時高岡に「一字」(お堂が一つ)だけの「宝円寺」を建立したとあります(「瑞龍寺由緒書上写」)。1614年の利長逝去後、宝円寺から改称した瑞龍院(のち瑞龍寺)の開山となりました。さらに、広山は信光寺(高岡市)、広乾寺(同)、延暦寺(氷見市)、常松寺(金沢市)、長寿寺(射水市)、長朔寺(同)などの開山にもなっています。

(仁ヶ竹主幹)



広山恕陽頂相(瑞龍寺藏)

問合先 博物館 TEL 20-1572